

横浜市歴史博物館等 平成28年度事業計画

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

[運営方針]

第3期指定管理においては、財団全施設の連携にむけて、3年、5年、10年の見通しをもった目標設定を行い、運営をしていきます。

本年度は第3期指定管理初年度であり、5館一括の基礎づくりを丁寧に行いながら事業を進めます。

財団各館のこれまでの歴史と役割を十分に生かしつつ、全施設が連携することにより、それぞれの施設の強みを生かし、連携による柔軟な発想と多様性を生み出しながら、魅力的な事業を実施していきます。また、その実現に向けた組織の構築と運営を行っていきます。

1 財団全体としての取組み及び事業

1 柔軟な発想と多様性を生み出す「5施設連携」

◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、各館の専門職が連携し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的に調査・研究を行うことを始めます。また、共同研究により、横浜の新しい「通史」を描いていく研究の基礎を構築します。

◇魅力的な企画・展示・講座・出版

幅広い年齢層や興味関心等、市民のニーズに応える工夫に取り組みます。ハード面、ソフト面両面からリニューアルを考え、魅力ある企画、展示・講座等を目指します。

◇まちづくりへの参画・・・

◇多様な組織との連携・・・

◇「開港記念日」の演出・・・

これまで各館ごとに行ってきたことを、財団という大きくくりでとらえ、組織力を生かして参画・連携していきます。本年度は特に重点的に取り組みます（次ページ別表参照）。

2 財団内の人材の交流を活性化し、活力ある、魅力的な組織への取組

◇財団横断的研究会の発足

財団内の人材交流を活性化するために、各施設の職員が協同で行う横断的研究会を発足させ、財団が目指す横浜の新しい通史を描く「研究の基礎となる体制」を構築していきます。ここで得られた研究成果を、今後の連携展示・連携企画に反映できるようにします。

◇全施設での人材育成

一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、研修を充実させます。これまでの研修計画を見直し、中長期的な視点で人材育成を図る研修体系を構築し、実施していきます。

3 連携による業務の一体化を促進し、効率化を図る土台作り

◇効率的な人員の配置

◇予算等経営資源の有効活用

別表 まちづくりへの参画および多様な組織との連携】

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区との連携	中区	開港資料館 都市発展記念館 総務課	区制 90 周年記念 開港記念会館 100 周年記念 実行委員会、記念誌作成協力
	中区	開港資料館 都市発展記念館	中区広報に連載執筆
	都筑区	全施設 総務課	区制 25 周年 記念誌作成協力
	神奈川区	全施設 総務課	区制周年記念への協力 (浦島太郎伝説の絵本作成、子ども達への普及等)
	栄区	埋文センター 総務課	区制 30 周年記念への協力
	青葉区	歴史博物館 総務課 歴史博物館	・区生涯学習講座 ・小学校歴史資料室の再整備
	磯子区	三殿台考古館	・区内の市民利用施設が企画するゴールデンウ ィーク企画に参加。「いそっぴゴールデンウー ク 2016 スタンプラリー」
	金沢区	歴史博物館 埋蔵文化財センター	歴史協定による連携事業、金沢図書館での展示 博物館デビュー事業による活動の拡大
市との連携	全国都市緑化フ ェア	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 総務課	・環境創造局との連携 (27 年度より継続)
教育委員会と の連携	授業づくり講座	全施設	・指導企画課、4 方面教育事務所との連携 ・修学旅行事前授業 (仏像の見方) ・社会科、日本史、世界史、美術等の学習を豊か にするための職員向け研修への協力
	アイカレッジ	全施設	・教職員育成課との連携 ・横浜の歴史を学ぶ
	教員研修	全施設	・教職員育成課との連携 ・横浜の歴史を学ぶ
	子どもアドベン チャーへの協力	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	教育委員会主催事業 (夏季)

		ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	
	高校教育	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	グローバル人材の育成 海外大学進学支援プログラム
社会科研究会 (市・区)	市研究会 区研究会	全施設	・教員研修
学校連携	出前授業	全施設	・学芸員による出前講座
	歴史マップ作成	歴史博物館	・エドューケーターを中心とした資料作りおよび普及啓発
	学校の歴史資料 室の活用	歴史博物館	・博物館デビュー支援事業の継続 〔文化庁補助事業〕
	職業体験受け入れ	全施設	・中学校2年生キャリア教育への協力
	中学校社会科作 品展	歴史博物館	・継続社会科研究の展示発表（企画展示室）
	県内の高校の社会 科クラブとの連携	開港資料館	・社会科クラブの生徒への研修・指導
	小学校の地域交流ク ラブ・サマースク ール等への支援	三殿台考古館	近隣小学校への支援
他館との連携	県立博物館	歴史博物館	・企画展（「浮世絵通史小事典」）の連携実施
	宮内公文書館	開港資料館 都市発展記念館	開港・都発の企画展示での協力
	展覧会の開催	ユーラシア文化館	天理大学天理参考館と協力してシュリーマン展 の開催
市民団体との 連携	横浜郷土史団体 連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	協議会の事務局をつとめ研修や協働事業を実施
	地域歴史散策	埋蔵文化財センタ ー	栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由緒 ある寺社を見学・散策。
	展覧会ワークシ ョップ	都市発展記念館・ユ ーラシア文化館	活動支援ボランティアと連携して、企画展開催 時の土・日にワークショップを開催。
大学連携	神奈川大学	歴史博物館	・企画展（「和船の世界」）の連携実施
	展覧会共催	ユーラシア文化館	早稲田大学と連携・協力してフスタート遺跡展 を開催
	大学学外研修	ユーラシア文化館	大学の東洋史専攻の学生の課外授業に対応：資 料熟覧・展示解説など
地域連携	NPO 法人都筑民	歴史博物館	・文化イベント（「都筑・遺跡公園・民家園アー

	家園管理運営委員会		ト月間」) の連携実施
	タウンセンター活性化検討会	歴史博物館	・センター南・北の活性化企画や催しの実施
	日本大通り活性化委員会	都市発展記念会 ユーラシア文化館	・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しの実施
	国際フェスタ参加	ユーラシア文化館	象の鼻パークを中心に開催される「よこはま国際フェスタ」に参加し、イベントブースを設置。
民間事業者連携	富士ゼロックス(株)	歴史博物館	・企画展における最先端の展示手法の実験
	アサヒグループ食品(株)	歴史博物館	・企画展の関連事業の実施
	東急電鉄(株)	歴史博物館	・青葉区内の小学校歴史資料室の整備

2 歴史博物館事業

〔 運営方針 〕

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことができるよう努めます。**同時に、市民の歴史・文化に求めるニーズの多様化やグローバルな視点から横浜の歴史を普遍化する要望などに、柔軟に対応していきます。そのために、職員一人一人が専門性の向上に努めることはもちろん、財団諸施設や外部組織と広く連携することにより、博物館としてのリテラシーを高め、事業の質の向上を図り、市民の期待や欲求に即した活動を確実に実施していきます。**

本年度は、第3期指定管理期間の初年度にあたり、今後3年間は財団全施設の連携に向けた基礎づくりと位置づけられています。当館はこの点を念頭に置き、事業を展開します。

企画展事業では、春に来館する学校団体を対象にした「横浜発掘物語2016」展、6月からは神奈川県立歴史博物館と連携する「浮世絵通史小事典」展、夏には数年来の「博物館デビュー」事業の成果をまとめた「小学校にお宝発見!」展、秋には国民的な話題性を持つ「日本のシンドラー 杉原千畝」展、冬には神奈川大学と共催で「和船の世界」展を開催します。いくつかの企画展では、展示技法や関連企画に民間事業者のノウハウをお借りするなど、指定管理初年度にふさわしい充実したラインナップを用意します。**常設展事業では、解説ボランティアを導入し、従来の遺跡解説と一体的なガイドサービスを提供し、市民と協働して来館者の満足を高めます。調査研究では市民との協働による研究を3つ、また財団施設間連携の研究を4つスタートさせます。市民協働や施設間連携の利点を活かしつつ、これらの研究成果は企画展などの事業に繋げ、市民に還元していきます。**

この他、学校団体利用促進のための月曜日臨時開館、昨年市の有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居(複製)上演など各種集客イベントを継続し、市民サービスの向上を図るとと

もに、積極的な業務内容の改善、運営の効率化に努めていきます。さらに、**地域や多様な組織との連携も重視していきます。都筑区や青葉区、金沢区の文化事業への参画や協力、NPO法人との遺跡公園活性化事業、民間事業者との企画展示室における実験的企画等を実施し、当館の活動の場を多様な繋がりの中から広げていきます。**

開館後21年を経て、常設展示室の内容や機器類、遺跡公園や施設・設備等の老朽化が進んでおり、常設展示のリニューアルの検討を進めると同時に、適切な施設の維持・管理にも取り組んでいきます。

また、平成25～27年度に続き、平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に、当館が核となり実行委員会を構成して「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー事業」を応募し、市内の小学校が所蔵する資史料の調査・整理、学校内資料室の整備・活用を進めていきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館の基幹となる事業であるので、寄贈資料の受入をはじめ積極的に資料の収集を進めていきます。

（1）資料の収集

項 目	目的・意図
寄贈・寄託資料の受入	市民に理解と協力を求め、資料を散逸から守る。
実物資料の購入	企画展・常設展での展示をはじめ、体験学習室等、博物館活動で使用する資料を収集する。
レプリカ製作	市域にかかわる資料の複製等を行う。
マイクロ撮影	市域にかかわる歴史資料のマイクロフィルム化と整理を行う。

（2）資料の修繕

古文書の裏打ち、考古資料の修復、美術工芸資料の修復を行う。

（3）資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、またIPMの手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図る。

（4）資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。また収蔵資料および展示資料のデジタル写真の撮影と整理を進める。また過去に撮影して保管しているフィルムについては、順次デジタル化を進める。

（5）図書資料の公開

図書文献を収集して整理を進め、図書閲覧室で公開する。

（6）画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、資源の活用を図る。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

博物館活動の原資となる調査研究は、基礎資料研究・テーマ研究・市民協働研究の3分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていく。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎資料研究		
横浜市域貝塚の研究 (1 / 3 年次)	横浜市域には、縄文時代から近世に至る多数の貝塚があるが、自然遺物についてはその分量が膨大なため、未整理・未報告に終わっている場合が多い。これらの未報告資料の中から研究上重要なものについて、基礎整理作業を行い、報告する。	本年度は弥生時代の貝塚をとりあげ、(公財) 横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターに保管されている上台北遺跡(鶴見区)などの未報告資料の整理と分析を行う。
横浜市内の後期旧石器遺物の研究(1 / 3 年)	横浜市内南部の後期旧石器時代の遺跡について、河川流域ごとに出土資料の実見を中心とした調査を行い、石器群の様相を明らかにする。	本年度は戸塚区来迎寺西遺跡など、柏尾川流域に分布する遺跡についての遺物を実見し、出土状況などを再検討する。
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究(1 / 3 年次)	当館収蔵の横浜市指定文化財、上矢部富士山古墳(戸塚区)の未整理破片について、調査時の図面や写真と対照し、個体の同定を試みる。可能なものについては注記・接合を行い、分類・復元・図化を行なう。最終的には個体の特徴を抽出し、同古墳埴輪を改めて概観する。	本年度は埴輪の未接合の破片について、調査時の図面・写真との対照を行い、個体の同定と可能なものの注記・接合の基礎作業をおこなう。
市域所在の中世資料の調査(1 / 3 年次)	本調査研究では、昭和50年代以来行なわれていない市域中世資料の再確認を実施するとともに、その他市域に所在する古文書・金石文等の中世資料を概観し、調査と撮影をすることを目的とする。	本年度は、横浜市史料所在調査で確認された、約25箇所の所蔵先に対し、史料の所在を再確認するとともに、未撮影のものは改めて撮影を行なう。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究(1 / 3 年次)	横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性などを明らかにする。	本年度は、文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業を申請・活用しながら、泉区下飯田に伝わる指定文化財「廻り地蔵」を伝承する地域の調査を実施する。
テーマ研究		
人面付き土器の研究 (1 / 2 年次)	平成 26 年度に寄贈を受けた神奈川県指定重要文化財である鶴見区上台北遺跡出土の人面付土器について、理化学的分析を含むさまざまな方面から検討を加え、その位置づけを明らかにする。	一年目は、当該土器についての考古学的情報の整理、人面付土器についての先行研究の検討、資料調査による類例との比較などを進める。

横浜市域の牧の研究 (1 / 3 年次)	現在の横浜市域には、武蔵国立野・石川両牧が存在したとされている。これらの牧を中心に、関東近県の古代の牧について研究し、古代の牧をめぐる地域社会の動向を明らかにする。	武蔵国立野・石川両牧について、『延喜式』や平安時代の故実書などの文献を調査し、制度を概観するほか、関東近県の牧跡とされる遺跡の事例を抽出する。
幕末維新期の政局と横浜の村々の研究 (1 / 3 年次)	幕末～明治初年における、市域の村々に関する古文書などの資料を分析し、当該期の横浜の人々と政局や権力との関わりを考える。	幕末から戊辰戦争期の助郷などの人馬徴発について、関連資料の調査、分析を実施する。
近世横浜・江戸湾の水 上交通に関する調査 研究 (1 / 1 年次)	近世の横浜市域・江戸湾に関わる水上交通資料を分析することによって、横浜の人々の川・海に関わる生活と他地域との交流の様相を明らかにする。	近世の横浜市域・江戸湾の水上交通に関する諸資料を、横浜内外の資料保存機関にて調査・分析し、その成果を企画展「和船の世界(仮題)」において市民にわかりやすく紹介する。
学校内歴史資料室に 関する研究 (1 / 3 年 次)	平成 25 年度から実施している「博物館デビュー支援事業」で進めている学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況を明らかにする。	本年度は平成25～27年度までの資料整理の成果をまとめ、夏期の企画展「小学校にお宝発見！(仮題)」で公開する。
市民協働調査研究：市民とともに調査研究を行う		
土器の実験考古学的 研究 (1 / 3 年次)	市内出土の土器について、 横浜縄文土器作りの会 の協力を得ながら観察と製作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究する。	本年度は、市内出土の宮ノ台式土器(弥生時代)の製作・使用実験などを行い、その経過をまとめる。
武州金沢藩目付日記 の研究 (1 / 3 年次)	当館で所蔵する武州金沢藩の目付の公用日記(慶応 4 年～明治 3 年)の記載内容の分析。 横浜古文書を読む会 とともに解説を行い、活字化する。	慶応 4 年の日記を解説し、活字化する。成果は紀要等にて公開する予定。
市民協働民俗調査 (1 / 3 年次)	平成 21 年に組織した 民俗に親しむ会 について、新たな市民を加えて再組織し、市域のフィールドワークを行なう。	本年度はこれまでの「民俗に親しむ会」がテーマとした鶴見川流域についてデータをまとめることとともに、新たな市民を加えて「民俗に親しむ会」を再組織する。

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

また平成 31 年度に横浜開港資料館と連携して開催を予定している明治維新 150 周年関連企画展に向け、明治維新に関する共同研究の体制を立ち上げる。

施設間の連携による研究		
大塚遺跡の水田に関する研究 (1 / 2 年次)	神奈川県では弥生時代の水田遺構が確認された事例はなく、大塚遺跡も同様で	大塚遺跡の未発見の水田遺構について、先行事例の調査・分析・聞き取りなどを

	ある。本研究では 三殿台考古館・埋蔵文化財センターと連携 し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討し、大塚遺跡における水田の位置を推定する。	行い推定地の検討を進める。
ユーラシア文化交流の研究（1／3年次）	ユーラシア文化館と連携 して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。	年に3回ほど財団内外の研究者の研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、共同企画展などの可能性を模索する。
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（1／3年次）	都市発展記念館と連携 し、昭和期の横浜に在住した庶民の日記を分析することによって、戦前・戦中・戦後混乱期の横浜の都市生活の様相を明らかにする。	磯子区の時計店に勤務していた青年の日記（下平政熙日記）を分析し、昭和戦前期横浜の都市生活の具体的様相を検討する。
銭湯を中心とする横浜の公衆衛生に関する研究（1／2年次）	開港資料館と連携 し、戦前から高度成長期にかけて、臨海部の労働者の公衆衛生を担った「銭湯」について、歴史学と民俗学の両面から考察する。	横浜開港資料館と連携して開催する「銭湯」をテーマとした平成29年度企画展に向け、市域で現存する銭湯について調査を実施し、基礎的な資料の集成を行なう。

（3）企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設への資料調査などを実施する。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

- （1）展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行う。
- （2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。（観覧者目標数78,200人）
 - （ア）ミニ展示：特設コーナーを設置して、収蔵資料等を展示紹介する「ミニ展示」を6月から実施する。本年度は5回実施し、開催期間は各40日程度とする。開催中のラストサタデーには学芸員が解説を行う。
 - （イ）**ボランティアによる常設展示解説：本年度より常設展の解説ボランティアを導入し、学校団体をはじめ来館者の展示理解を助ける。**
 - （ウ）市内小中学校教員を対象にエドゥケーターが展示を教材とした授業例を実演する。
 - （エ）小学3・4年の社会科学習に対応するテーマ（「昔のくらし」や「吉田新田」等の郷土史学習）に関連する常設展示について、来館した小学生を対象に学芸員・エドゥケーターが解説を行う。
- （3）開館以来20年の研究成果を反映し、新たに収集また寄贈・寄託を受けた資料を生かして、各展示室内の部分的なリニューアルを検討する。また歴史劇場は内容の古さに加えて機器の老朽化のため、早急な改修が必要な状況であり、劇場の改修と利用方法について検討する。

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

- （1）企画展・特別展

本年度は4月には初めて歴史を学ぶ小学校6年生を主な対象とした「君も今日から考古学者！－横浜発掘物語 2016－」、博物館デビュー支援事業の成果を利用した「小学校にお宝発見！」、神奈川県立歴史博物館との連携企画展「普及版 浮世絵通史小事典」、神奈川大学との連携企画展「和船の世界」を実施するほか、初めての試みとして外部企画の写真展「日本のシンドラー杉原千畝」を受け入れて実施する。

(観覧者目標数 56,000人)

事業名称（仮題）／開催期間	観覧者目標数	目的・意図、実施内容
企画展「君も今日から考古学者！－横浜発掘物語 2016－」 平成28年4月2日（土） ～6月5日（日）	22,000人	発掘調査や考古資料から昔の人の生活を読み解くのが考古学について、その方法や成果を分かりやすく紹介する。また、実物資料に触れる、考古資料に関係した体験を展示に盛り込むなど、来館者が考古学を身近に思える展示を試みる。対象：小6以上・一般
連携企画展「普及版 浮世絵通史小事典」 平成28年6月18日（土） ～7月10日（日）	7,000人	神奈川県立歴史博物館と連携 し、浮世絵の歴史に沿って、同館が所蔵する浮世絵コレクション「丹波コレクション」の作品を紹介する。6000点余から厳選した作品により、浮世絵の歴史を辿るとともに、1点1点の特徴や見どころも、わかりやすく紹介する。 対象：小6以上・一般
企画展「小学校にお宝発見！」 平成28年7月23日（土） ～9月4日（日）	8,500人	平成25年度から実施している「 博物館デビュー支援事業 」は3年が経過し、一定程度の成果がまとまりつつある。博物館が主体となって地域や小学校とこれまでにない取り組みを進める本事業を広く市民に周知し、新たな博物館の役割を周知していく。 対象：小学生以上、一般
寿福滋写真展「杉原千畝と命のビザ－シベリアを越えて－」 平成28年9月24日（土） ～11月27日（日）	7,000人	港北ニュータウンの埋蔵文化財撮影で活躍した写真家寿福滋氏が、長年にわたり追いつけた杉原千畝の「命のビザ」関連の写真展。新たに逃避行の中継地として横浜の位置づけを行う。 対象：一般
「横浜市指定・登録文化財展」 平成28年12月10日（土） ～平成29年1月9日（月・祝）	3,500人	横浜市が指定してきた文化財を紹介する。また会期に併せて横浜市中学校社会科研究会の作品展を開催する。 対象：一般
企画展「和船の世界」 平成29年1月28日（土） ～3月20日（月・祝）	8,000人	和船は縄文時代に使われていた丸木舟を母体とし、日本独特の構造を持つ船である。本展は神奈川大学が所蔵する和船模型コレクションを核とし、鉄道が発達する明治時代後期まで

		国内の物流に多くの役割を果たした和船の諸相を紹介する。展示は 神奈川大学との共催 とし、当館を第1会場、同大を第2会場として開催するほか、連携して講演会などの関連事業を実施する。 対象：一般
--	--	---

(2) 講座・講演会

学芸員による毎月1回の定期講座を本年度から実施する。

項 目	目的・意図
歴史講座	専門職員による横浜の歴史をテーマにした講座を毎月定例で開催する。平成28年6月から毎月1回実施
古文書解読教室	初心者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。平成28年秋に実施予定。
特別講演会	横浜の歴史や文化をテーマとし、各界の専門家を講師に迎えて特別講演会を行う。平成29年1月下旬
実験考古学講座 縄文土器づくり	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。全4回。関連事業として土器づくり教室作品展を開催する。
ふるさと横浜探検	専門職員や外部講師が解説しながら、横浜市内外の史跡や博物館を巡る。年間3回を予定し、このうち1回は埋蔵文化財センターと連携して実施する。

(3) 普及体験

項 目	目的・意図
体験学習室	火打ち石や駕籠、石臼などの資料に直接触れながら、歴史を楽しみながら学んでもらう。プログラムは時期に応じて変更し、12月から3月にかけては小学校3年生のカリキュラムに合わせたミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」を実施して、近隣小学校の利用促進を図る。
ワークショップ「れきし工房」	野外施設の工房や体験広場等で、主に小学生以上を対象にして、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催する。小田原ちようちんづくり、横浜の土偶、そめもの、ぞうり編み、あじろ編みでバッグ等を実施。
大塚遺跡まつり	野外施設である大塚歳勝土遺跡公園を活用し、土器の野焼きや古代米の一口体験、火起こしなど、古代の技術や生活を体験する催しを実施する。5月5日実施。
竪穴住居に泊まろう	遺跡公園の復元住居に家族単位で宿泊してもらって体験事業を行なう。平成28年7月16日（土）～17日（日）
ナイトミュージアム	博物館閉館後に博物館内や遺跡公園のガイドツアーを実施する。

	平成 28 年 9 月 17 日（土）
バスツアーの企画・共催	旅行会社とタイアップし、当館企画・共催のバスツアーを実施する。
夏休み博物館たんけん隊	夏休み期間中、児童生徒を対象に、普段見ることのできない博物館の裏側や見どころの解説などを行い、博物館への関心を深める。8 月開催。
土器づくり教室作品展	土器づくり教室の作品展を開催するとともに、土器づくりの過程を展示する。
「子どもアドベンチャー2016」への参加	横浜市が取り組んでいる、児童を対象とした夏休み企画へ参加する。8 月中旬実施。



ふるさと横浜探検



ナイトミュージアム

（４）集客イベント等

項 目	内 容
ラストサタデープログラム	新たな顧客層獲得とリピート率向上のために、毎月最終土曜日をラストサタデーと位置づけ、常設展示室やエントランスホールなどを使って各種イベントを開催する。
「開港記念日」市民優待デー	開港記念日を祝し、当日を全館無料とし、常設展示室（近現代）で、横浜開港を中心とした展示解説を実施する。
エントランスホールコンサートの実施	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、博物館エントランスを会場にコンサートを開催する。年 2 回。
博物館感謝デー	1 月 3 1 日の開館記念日にあわせ、直近の土・日曜の 2 日間を全館無料とし、各種行事を実施する。（1/28・29）
街頭文化祭	8 月及び感謝デーに紙芝居やパフォーマンスといった街頭で行われていた大衆芸能を実施し、新たな客層の集客を図る。
おもしろいぞ！紙芝居	横浜市の有形民俗文化財に指定された当館所蔵街頭紙芝居を活用し、ラストサタデープログラムの一環として複製した紙芝居を実演する。
出張勾玉づくり	地区センター等の要請に応じ、出張勾玉づくりを共催で実施する。

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアの活用	遺跡ガイドボランティア 市民ボランティアにより、博物館野外施設の解説ガイドを行うとともに生涯学習支援を行う。
	活動支援ボランティア 学校団体見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動を行う。
新規ボランティア導入	常設展示の解説ボランティア 学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげる。
出張土器づくり授業	学校からの要請に応じ、 横浜縄文土器づくりの会との協働 で出張土器づくり指導を実施する。
あじろ編みワークショップ	ミュージアムショップで販売している「あじろ編み小物入れ」について、「 横浜歴博もりあげ隊 」の協力を得てワークショップを実施する。
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	横浜開港資料館と共に 横浜郷土史団体連絡協議会 の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施する。
横浜歴博もりあげ隊との共催事業の実施	博物館をバックアップする市民団体である「 横浜歴博もりあげ隊 」と協力し、講座等のイベントを実施していく。
横浜縄文土器づくりの会作品展	横浜縄文土器づくりの会の会員が製作した縄文土器を展示するほか、会の活動について広報を行う。

(6) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。教員を委員とする「小学校博物館利用研究会」、「中学校教材開発研究会」を継続して開催し、小中学校との連携の強化を図る。
	学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜臨時開館を実施する。 学校利用目標数 500校
	各施設の学校利用促進のためのIT活用等の検討を行う。
訪問授業・展示解説授業	昔のくらし・吉田新田などの社会科授業、総合学習における土器づくり指導などを学校等の要望に応じて行う。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「昔の道具しらべ」や「吉田新田の開発」など特定テーマに関する研修を実施する。
学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業	市内小学校の所蔵する資史料の調査・整理、学校内歴史資料室の整備・活用を進める。(文化庁補助事業採択により実施)



博物館デビュー事業



遺跡ガイドボランティア

(7) 地域や多様な組織との連携

項 目	内 容
都筑区との連携	・平成31年に刊行予定の「図説 都筑の歴史（仮題）」の編集事業を財団の他施設と共に協力する。 ・都筑区主催の「都筑のまち・歴史講座」を共催する。
青葉区との連携	・青葉区内の小学校歴史資料室の再整備に協力する。
金沢区との連携	・金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携をはかる。
NPO 法人都筑民家園管理運営委員会との連携	・民家園・遺跡公園・博物館エントランスを会場に、グローバル化や国際化の要請に応え、「日本を知ろう」を意識した「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」を開催する。10月頃実施予定。
タウンセンター活性化検討会への加入	・センター南・北の活性化について、当該地区の諸事業所ともにアイデアを出し合い、多様な企画や催しを実施する。
民間事業者との連携	・富士ゼロックス（株）と連携し、当館企画展において最先端のディスプレイ実験を実施する。 ・アサヒグループ食品（株）と連携して、企画展の関連事業を実施する。 ・東急電鉄（株）と連携し、青葉区内の小学校歴史資料室の整備を実施する。
その他の地域連携	・その他、市内や都筑区内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施する。

(8) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報（6駅） 市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類の配布。 インターネットによる広報（ホームページ・メールマガジン発信）

	SNS による情報発信。 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報。 テレビ・ラジオなどへの話題提供。 区民まつり、センター北まつりへの出店参加による広報（都筑区） 他館と連携した広報活動の実施。
地域文化財情報の発信	区や学校等と連携し、講座・講演会の開催・広報印刷物発行等を行う。
市民ニーズの把握	アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。
催事申込システムの運用	当館主催の事業について、インターネットを利用した催事申込システムを運用する。

（９）出版

項 目	内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレットを作成する。 歴史博物館催し物案内を作成する。
出版物発行	「横浜市歴史博物館ニュース」（発行 20,000 部、年 2 回） 「横浜市歴史博物館資料目録」第 25 集（発行 700 部） 「紀要」第 21 号（発行 800 部）

（１０）実習生・研修生の受入

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。本年度は 1 年を通じた分散型の実習コースで実施する。10 人。
インターンシップの受入	大学院や大学生の社会研修や高校生・中学生の職業体験を実施する。

５ 情報事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

（１）インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索などをウェブを通じて発信する。

（２）映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

（３）文化財情報システムの保守管理

サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行う。

（４）メールマガジンや SNS の活用

メールマガジンや SNS を利用し、博物館の存在をより身近に感じるような広報を行なう。

（５）インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

市民ニーズを踏まえてインターネットを利用した催事申込システムならびに、昨年度導入した学校団体予約システムを運用する。

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の施設維持を行う。

- （1）歴史博物館及び野外の施設維持。
- （2）研修室・講堂等の貸出及び稼働率の向上。
- （3）広告料収入等の確保。
- （4）帰宅困難者一時滞在施設としての対応。

7 収益事業（定款第4条第2項）

- （1）ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

- （2）駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営する。（館内22台、屋外32台、バス6台）

- （3）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

3 開港資料館事業

〔 運営方針 〕

今年度、開港資料館では、財団諸施設との連携事業はもとより市役所・区役所や他の博物館・文書館、企業と連携した事業を積極的におこなっていきます。資料収集保管事業では、都筑区川和町の中山家所蔵資料の収集・整理を中心に、都市発展記念館や歴史博物館と連携して資料の収集をおこないます。また、調査研究事業では従来から市史資料室や都市発展記念館と共同でおこなってきた昭和期の横浜に関する共同研究や所蔵する地図の共同データベース化を推進します。また、平成31年の明治維新150周年に向けて歴史博物館と明治維新に関する共同研究をおこなう体制を立ち上げます。

企画展示では都発と共同して宮内公文書館との連携展示をおこない、宮内庁が所蔵する資料を市民に公開します。このほか、市民協働・学校連携事業では、都市発展記念館・ユーラシア文化館と連携してワークショップをおこなうほか、従来から事務局をつとめてきた横浜郷土史団体連絡協議会設立10周年を記念した事業を実施します。さらに、高等学校との連携を強化し、高等学校とともにおこなう事業を立ち上げます。一方、夜間開館を継続するほか、旧英国領事館である旧館を歴史的な観光資源として活用するため、旧総領事執務室である記念室等を公開していきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

- （1）資料の収集

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受ける。特

	に、これまでやや収集が手薄であった大正期以降の民間が所蔵する資料の収集を都市発展記念館や市史資料室と連携しながら進める。
資料購入	近代横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を広く目配りしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルムやデジタル撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

(2) 資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

閲覧室での一般利用に適さない絵図・古写真・地図などの画像資料はデジタル化し、将来のオープンデータ化に備える。

(3) 資料の保管

資料は、常時、温度20～22度、湿度50～55%を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化あるいは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料の保存環境の維持管理を図る。

(4) 資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

(1) 調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業務を遂行する上で必要な調査研究を行います。

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
開国・開港期の研究 (1/3年)	近代日本の主要産業だった貿易や近代化に向けての幕府や明治政府の政策についての研究	開港から明治10年代の生糸や蚕種貿易の動向やスイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻、ペリー来航から横浜開港までの資料分析。
横浜近代社会政治史 (1/3年)	政治外交の舞台としての横浜と周辺町村の近代化についての調査・研究	市外の歴史資料保存活用施設所蔵の横浜関連資料の調査、周辺町村の文書および住民生活に関する調査・分析
横浜近世・近代社会経済史 (1/3年)	横浜開港の前提となった17～19世紀における地域的な諸条件(政治・社会・経済等)の研究	大岡川河口部に存在する関内・関外地域における自然・社会環境の変貌に関する調査・分析
横浜近代文化史 (1/3年)	近代文明化の基礎となった幕末・明治の横浜の出版文化に関する研究および郷土史・学校史についての調査・研究	出版関係資料である小宮山博史氏所蔵資料の整理、市域に残された教育関係資料の調査、岩生文庫の再整理とHPでの公開

横浜近代欧米関係史 (1/3年)	幕末・明治維新期を中心とする横浜の外国人社会の調査・研究—とくに幕府・明治政府と欧米列強間の外交と外国人社会への影響の調査・研究	収集済み各国外交文書の横断的な活用をはかる。また受け入れ済み海外関係史料の整理の継続と、収集整理を終えた史料のHPでの公開を含む一般公開をおこなう。
横浜近代アジア関係史 (1/3年)	19世紀中頃から20世紀中頃を中心に、横浜のアジア系外国人社会の調査・研究	中国語雑誌や関連絵葉書などの整理、横浜華僑関係の資料調査、オーラルヒストリー調査の実施。
歴史情報の集積と研究 (1/3年)	横浜の新聞・雑誌を中心とする刊行物と出版者等に関する研究、横浜に関する歴史情報の集積と公開	幕末から昭和戦前期に発行された歴史資料としての新聞・雑誌等に関わる調査・整理・研究を実施、合わせて最新の歴史情報を集積しレファレンスに活用する。
* 歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

(2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

①戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・都市発展記念館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、「高度成長期の都市横浜」に関する資料収集・調査研究を進め、その成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

②横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

都市発展記念館・市史資料室との連携事業(3カ年)。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業も進める。

③銭湯を中心とする横浜の公衆衛生に関する共同研究

平成29年度に歴史博物館との連携提示により開催を予定している「銭湯」をテーマとした企画展に向けて、当該テーマに関する共同研究を実施する。

④明治維新に関する共同研究

平成31年度に歴史博物館との連携展示により開催を予定している明治維新150周年関連企画展に向けて、明治維新に関する共同研究の体制を立ち上げる。

(3) 調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、普及などの業務に反映させる。28年度は、新規指定管理期間の初年度であることをふまえ、中長期的な視野で今後の活動を検討するため、委託研究を2本に集約した。

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜近現代史分野の調査研究	横浜近現代史の総合研究 (1/3年次)	①横浜近代史の成果論集の刊行 ②市内外旧家・機関所蔵資料の調査 ③横浜関連資料の調査研究 ④東京湾・横浜港・河川史に関する調査

横浜国際関係史分野の調査研究	横浜における華僑の教育史に関する調査研究 (1 / 3 年次)	① オーラルヒストリー調査の実施 ② 教育関係資料の調査・収集・研究
----------------	------------------------------------	---------------------------------------

(4) 研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第35号を発行する。(発行1, 250部)

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 常設展示室

常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマ－」の2室の維持管理を行う。**(観覧者目標数 59, 100人)**

(2) 旧館の活用

旧館1階の記念室（旧英国総領事執務室）等を公開するとともに、旧館記念ホールなどにおけるミニ展示の実施等、さまざまな事業により、市民が旧館ホールや記念室を横浜の歴史と文化に触れる場所として活用する。これにより、資料館の認知度を向上させるとともに、施設を集客資源として活用する。

(3) 屋外展示

中庭に設置している野外展示パネルは、子どもたちにも分かりやすくペリー来航から関東大震災にいたる横浜の歴史を学ぶことができる。維持管理とともに、広く広報することにより、集客に結びつけていく。また、横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」についても広報する。

(観覧者目標数 100, 000人)

(4) 特別資料コーナー

常設展示室に特別資料コーナーを設けて、寄贈・寄託された資料やアップトゥデートなテーマに関する資料などを随時、紹介する。

(5) 展示等事業の広報

項 目	内 容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第132～135号を発行する。 (発行部数：12, 000～15, 000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
その他広報	市営地下鉄駅構内の案内看板による広報（関内駅） みなとみらい線駅構内の案内看板による広報（日本大通り駅） 新聞・雑誌等への記事掲載による広報 ホームページやメールニュース、Webへの情報掲載による広報 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 学校ポストを利用した市内小中学校、高校への広報

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 企画展の実施

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
----------------	--------	-------

「ハマの大地を創るー吉田新田から近代都市へー」 平成28年4月15日（金） ～7月18日（月・祝日）	16,000人	現在の関内・関外地域にあたる大岡川河口部の入海が新田開発され、さらに開港後に都市化していく過程を紹介する。
「芝山漆器と横浜」 平成28年7月22日（金） ～10月23日（日）	18,100人	横浜開港後、日本は外貨獲得の手段として、有田焼や薩摩焼、横浜で作られた芝山漆器など、さまざまな工芸品を輸出した。主に横浜港から欧米各国に輸出された精巧で優美な作品の数々は、ジャポニズムと呼ばれる文化的流行を引き起こした。展示では、芝山漆器のコレクター金子皓彦氏所蔵の作品を借用し、明治初頭から昭和初期に至る横浜の手工業の歴史を振り返る。
「宮内庁文書にみる横浜」 平成28年10月28日（金） ～平成29年1月29日（日）	14,000人	当館と宮内公文書館が所蔵する資料を活用しながら、近代化の象徴であった明治天皇の姿と地域社会との関係を紹介する。
「横浜開港資料館の35年～開館35周年記念～」 平成29年2月1日（水） ～4月23日（日）	11,000人	当館は平成28年6月2日に開館35周年を迎える。展示では、35年間にわたり当館が行ってきた多種多様な仕事を紹介し、今後の歴史資料保存施設のあり方を考える。
企画展関連事業	400人	上記企画展の開催にあわせ、関連事業として講座・講演会等を実施する。

（2）講座・講演会ほか

項 目	参加者目標数	目的・内容
市民団体との共催による講座等の実施	のべ100人	横浜郷土史団体連絡協議会等の市民団体と共催する講座等を実施し、調査研究員が講師などをつとめる。
資料講読・展示関連講座	のべ150人	所蔵資料を講読してその内容と背景を解説する講座や、企画展の内容に関連した講座を実施する。 5回 会場：開港資料館講堂
大学・研究機関等との連携事業	のべ20人	横浜市立大学等の大学院生のインターンシップの受け入れを行うとともに、大学・研究機関等の見学・利用に対応する。
「子どもアドベンチャー2016」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加。 8月中旬
「開港記念日」市民優待デー	のべ100人	6月2日の開港記念日を中心として、ワークショップを開催する。ボランティアの活用により市民参加をはかるとともに、同時期に開催される都市発展記念館・ユーラシア文化館のワークショップと広報面も含め、協力・連携する。

(3) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

＜出版予定＞

- ① 広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第132～135号

(発行部数：12,000～15,000部、各号の発行部数は入館者の目標数によって変更する。)

- ② 「横浜開港資料館紀要」第35号 (発行部数：1,250部)

- ③ 企画展関連の出版物・印刷物の発行

(4) 市民協働・学校連携・博物館連携 他

- (ア) 横浜郷土史団体連絡協議会の活動を支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜郷土史団体連絡協議会(現在、市内18区約51団体)とともに、協働事業(講座・シンポジウム・共同展示・共同出版など)を展開していく。今年度は、同協議会の設立10周年であり、10周年事業を協議会と共同で実施する。事務局は当館と横浜市歴史博物館の職員が担当する。

- (イ) 学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体、ガイド協会などと協働事業を行う。第1回企画展示では、5月下旬に開催される横浜セントラルタウンフェスティバル Y157 に参加し、山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携し、資料館活動への理解促進と来館者増をはかる。本年度より Y157 においても都市発展記念館・ユーラシア文化館と連携して参加する。

- (ウ) 財団配置のエデュケーターと協議し、市内小中学校の教員が利用できる横浜の歴史に関する教材の作成を考える。

- (エ) 財団各施設でさまざまな学年を受け入れられるような体制を構築する一環として、当館では「ペリー来航」と「横浜開港」を主要な題材として、市立小学校6年生の社会見学・展示見学の受け入れを検討する。

- (オ) 高等学校との連携の試みとして、神奈川県内の公立高等学校の社会科関連のクラブによって構成される神奈川県高等学校文化連盟(神奈川県高文連)の社会科専門部会と提携することにより、展示見学の受け入れ、会合等における会場の提供、研究活動への助言等を進めていく。

- (カ) 従来より行っている「中区歴史の散歩道」の執筆等、市役所や中区をはじめとする各区との連携・協力を進めていく。

- (キ) 年度後半から実施されていく環境創造局がおこなう緑化フェア関係事業に、都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに協力する。

(5) 外部組織への資料提供および助言・監修

- (ア) マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供を行う。

- (イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともに、その作成物について助言・監修を行う。

中区役所が実施する横浜開港記念会館建築100周年記念誌の監修・執筆協力

(6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：10 人程度

(7) 各種情報のホームページなどによる発信等

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心にした画像資料のデジタル化や、収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善をすすめ、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページのアクセス形態や内容などを分析して市民の関心やニーズを把握し、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス目標件数 120,000 件

(エ) 電子メールによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。 発信先約 1,000 件

(オ) O P A C による蔵書検索機能の充実

(カ) 地図の共同データベース化

横浜都市発展記念館・横浜市史資料室と共同で各施設が所蔵する地図のデータベース化を進め、3施設が合同で地図を事業に活用できる体制の構築を目指す。すでに昨年度までに、約 14,000 点の地図のデータを入力した。

(8) 複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化し C D - R O M で提供する。これにより資料情報の発信を促進する。

利用目標件数 500 件 / 利用目標資料点数 1,500 点

(9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンス、及び資料のコピーサービスを行う。

閲覧室利用者目標数 3,600 人

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行います。

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜開港資料館の施設維持を行います。

全国都市緑化よこはまフェア開催に伴う植栽の増補や旧館の外壁修繕・天井塗装・窓枠塗装を市役所の関係部局と協力して実施する。

7 収益事業（定款第4条第2項）

(1) ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要、関連図書、グッズ等の販売と各企画展示にあわせた商品展開、売り場作りを行う。

また、企画展示関連の出版物や絵葉書の作成を行う。

商品は通信販売でも取扱い、積極的に販路を拡大する。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

(3) 喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、附属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

喫茶室で提供する飲み物はアルコール飲料の種類を増やし、営業時間の延長も視野に入れて利用者の拡大をはかる。

4 都市発展記念館事業

〔 運営方針 〕

都市発展記念館では資料収集保管事業・調査研究事業、常設展事業・企画普及事業のすべての事業で、財団諸施設はもとより市役所や区役所、他の歴史資料保存施設との連携を強化していきます。特に、企画展示では従来から市史資料室や開港資料館と共同でおこなってきた研究の成果を「横浜・山下公園―海辺に刻まれた街の記憶―」展で公開するほか、宮内庁書陵部が所蔵する資料を開港資料館と共同で借用し2つの施設で展示します。また、ユーラシア文化館の企画展「中国の近代建築」を共催して開催し、横浜の近代建築と中国の近代建築を比較します。

企画普及事業では、開港記念日にユーラシア文化館、開港資料館と連携してワークショップを実施します。また、5月下旬に開催される横浜セントラルタウン・フェスティバル Y157 には開港資料館とともに参加するほか、中区が実施する横浜市開港記念会館 100 周年事業、環境創造局が実施する緑化フェアにも協力します。さらに、夜間開館を継続し、市民サービスの向上を目指します。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用した画像資料の公開を進める。

(1) 資料の収集と保管

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民のくらし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館・市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れる。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民のくらし」、「横浜の文化」に関する資料を収集する。
複製による資料収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。

資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユーラシア文化館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

(2) ホームページ上を利用した資料公開

館蔵資料から絵葉書・古写真・ちらしなど画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」や「横浜歴史情報マップ」などで積極的に公開する。

(3) 複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期の横浜の歴史を中心に調査研究をおこない、その成果を事業に活用する。(1)は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集や市内の遺跡・遺構の基礎データの蓄積を目的とし、(2)は市史資料室・開港資料館との施設間連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用する。

(1) 調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜都市形成史 (1／3年次)	関東大震災後から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画（港湾計画）・都市交通などの観点から明らかにする。	都市交通資料について、(1)軌道交通＝市電関係等所蔵資料の整理と分析、(2)道路交通＝郊外幹線道路関係等資料の所在調査と収集・分析を開始する。成果は平成30年度企画展にて公開する。
	市域での近代建築および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の観点から都市横浜の特性を明らかにする。	採集地点ごとの出土遺物のデータベース化を進め、平成30年度発行予定の資料集成の準備作業として、代表的な遺物の図化作業をおこなう。
横浜都市経済・産業史 (1／3年次)	昭和期を中心に下記の3つの視点から現代都市横浜の経済（産業）構造を明らかにする。 (1)商業地区（商店街）の形成と変容について	三つの繁華街（中心商店街）〔伊勢佐木町、横浜駅西口、馬車道〕を対象に連携研究会にて資料調査を開始し、今年度は統計データの収集と分析をおこなう。

	(2) 観光および都市イメージの形成と変容について (3) 工業地帯の形成と変容について	旅行・観光関係資料（個人コレクション、ホテルニューグランド所蔵資料など）の収集・整理および映像資料の所在調査をおこなう。
横浜市政史／都市生活・文化史 （1／3年次）	・ 昭和期の横浜市政に関する資料の調査・研究を行い、政治史的観点から市政史の掘り下げを行う。 ・ 昭和期における横浜の都市生活の様相を把握するために資料の収集・調査を行い、市民生活の実態を明らかにする。	今年度は、戦後期における市民生活の復興に焦点を当て、地域の復興や生活困窮者への援護活動を明らかにする行政文書及び民間所在資料を調査し、成果を展示・講座・紀要等で紹介する。

（２）連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

①横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

開港資料館・市史資料室との連携事業（3カ年）。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業も進める。

②戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、「高度成長期の都市横浜」に関する資料収集・調査研究を進め、その成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

（３）研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第13号を発行する。（発行予定1,000部）

３ 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

（１）常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこなう。（観覧者目標数 48,000人）

（２）「旧市外電話局」第一玄関の積極的な公開・活用をおこなう。

ユーラシア文化館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした展示・集客事業を展開する。

（３）常設展示室の一面を使って、新収蔵資料を中心としたテーマ展示を開催する。

（４）常設展示のリニューアルに向けて内容を検討する。



旧第一玄関写真展



常設展示室コーナー展

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示や講座を実施します。また市内小学校団体の誘致や職場体験の受け入れなど、学校連携事業にも取り組みます。

（観覧者目標数 15,500人）

（1）企画展

展示名称（仮称）／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
「横浜・山下公園―海辺に刻まれた街の記憶―」 平成28年4月16日（土）～ 7月3日（日）	7,500人	関東大震災後に臨海公園として誕生した山下公園を舞台に、震災復興と博覧会、米軍による接收、戦後の港湾整備（公園埠頭計画）や観光政策（氷川丸の係留とマリントワー建設）など、多様な側面から横浜の昭和史を振りかえる。 近現代歴史資料課内連携
「復興元年・戦後横浜の市民生活」 平成28年10月22日（土）～ 平成29年1月15日（水・祝）	8,000人	戦争被害を大きく受けた横浜に住む市民が、どのように戦後の困難に立ち向かい、復興を果たしたのか、戦後の住宅環境、戦争被害者に対する援護活動、町内会・商店街の復興、防火帯建築の建設など、地域の視点から見直す。 宮内庁書陵部および開港資料館と連携

* ユーラシア文化館との共催展示

「中国の近代建築―増田彰久写真展」 平成29年1月28日（土）～4月9日（日）

30年にわたり撮影してきた増田彰久氏の写真を軸に、中国各地の近代建築を紹介すると同時に、横浜の近代建築との比較も提示していく。

（2）普及啓発

項 目	参加者目標数	目的・内容
月イチ講座	各回30人	企画展未開催期間を利用して、新収資料や最新の調査成果などを紹介する講座を1階ギャラリーで開催する。
1階ギャラリーの活用	各回ごと設定	1階ギャラリーを利用して、写真パネル展などの集客事業を開催し、新規来館者層の獲得につなげる。
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、市民ボランティアと協働しながら、企画展や昭和の時代に関連したワークショップを実施する。
「子どもアドベンチャー2016」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画に参加する。

（3）集客イベント

項 目	内 容
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。

夏休みイベント	ユーラシア文化館との共催事業として、夏休み期間に無料開館日を設けて、子ども向けワークショップを中心としたイベントを実施する。
開館祭	ユーラシア文化館との共催事業として、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施する。

(4) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および夏休みイベントや開館祭の機会に、市民ボランティアと協働しながら、ワークショップを実施する。

(5) 地域・行政との連携

項 目	目的・内容
地域事業者との連携	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。また5月下旬に開催される横浜セントラルタウン・フェスティバル Y157 に開港資料館とともに参加し、山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わいの創出と来館者増を図る。
区役所・市役所が実施する事業への協力	・中区に関する歴史資料を紹介する記事を「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で連載する。(昨年度より継続) ・中区役所が実施する横浜市開港記念会館 100 周年事業に、記念誌の監修・執筆などの形で開港資料館と共同で協力する。 ・市環境創造局が実施する「緑化フェア」の関係事業に、開港資料館と共同で協力する。

(6) 学校連携

項 目	目的・内容
市内学校団体見学の受入	小学校4年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致する。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に即した教員対象の研修を企画、実施する。
学校連携事業	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。



開館祭（建物ツアー）



教員向け研修会

（７）広報活動

項 目	内 容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 (第25～26号、各10,000部)
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ）、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開など
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。単なる情報の羅列にとどめずに、事業担当者がわかりやすく事業について解説・案内する。
「ハマ発ブログ」の運営	当館職員の日常的な活動（展示準備や調査研究の余話など）を、ブログ形式で発信し、館に親しみを持ってもらう。
マスコミ対応	・放送（テレビ、ラジオ等）、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供 ・フィルムコミッションへの協力 ・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）
外部機関との提携	・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 日本大通り活性化委員会での活動、Open! Yokohama、横浜セントラルタウン・フェスティバルY157、フォトヨコハマなどへの参加
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。

（８）実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。4名。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

（2）ホームページを利用した資料公開

ホームページ上で、写真・絵葉書などの画像資料を公開する。

ホームページアクセス目標件数 30,000件

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜都市発展記念館の施設維持を行います。

横浜市の建物中長期寿命化計画の中で、外壁及びエレベーター塔の修繕を行う。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

5 ユーラシア文化館事業

〔 運営方針 〕

横浜ユーラシア文化館は、市民の方にユーラシア文化の理解を促進し、国際文化都市横浜の発展に寄与するために、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

今年度、常設展示室では、**スポット展示を実施していくと共に、英文展示品図録、和英ガイドブックの刊行を目指します。企画展は、ギリシア考古学の父シュリーマンの展示をはじめ、都市発展記念館と共催による中国の近代建築に関わる展示、大学と連携したエジプトのフスタート遺跡の展示を開催します。**調査研究では、館の基幹となる資料の調査・研究をはじめ、引き続き歴史博物館の協力を得て、ユーラシア概念を深めていく研究を進めていきます。

学校との連携では、定着した4年生の学校団体見学に加え、ゲルやモンゴルの部屋コーナーを有効に活用し、**モンゴル童話を教材にしている低学年の見学を推進していきます。**また常設展示を活用し、**美術・歴史関係で小・中学校との連携を進めていきます。**普及啓発事業では、**1階のフリースペースや中庭や旧第一玄関などを活用し、講座やミニ展示、ワークショップ、写真展、イベントを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める場としていきます。**これらの事業展開にはボランティアに参加を求め、協働して当館のミュージアムシーンを創出します。

さらに、市民サービスの向上を目指し、水曜日の夜間の午後５時から７時までを開館とします。

１ 資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）資料収集・保存

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	展示で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（２）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

（３）文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続する。整理が終わったものから順次公開していく。

項 目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書・洋雑誌	蔵書の分類を継続する。
和図書・和雑誌	書誌データを入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

２ 調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
収蔵資料と関連資料の研究	江上コレクションの考古・美術・民族資料及び文献資料の調査を行う。	①館蔵イスラーム・ガラスや陶器などイスラーム時代の資料に関連した資料調査を行う。 ②関連する参考文献を収集する。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (１／５年)	横浜市民が保管するユーラシア関連資料について調査し、データを蓄積・公開する。	①これまでに市民から寄贈を受けたユーラシア関連画像データをデジタルアーカイブズで公開する。

		②市民から寄贈を受けた中国古鏡関連資料に基づいて構築・公開した銘文データベースを拡充する。
遊牧世界の物質文化の研究 (1 / 5 年)	国内にある遊牧民の資料（考古資料・民族資料）について調査し、日本にはない遊牧文化について情報を発信し、市民の異文化理解に資する。	①外部研究会に参加し研究を深める。 ②研究成果の反映を月イチ講座等で発信する。 ③イベントに遊牧文化紹介を組み込み、子どもたちの異文化理解を促進する。
ユーラシア概念をめぐる研究 (1 / 5 年)	「ユーラシア」の概念や、ユーラシア諸地域の文化交流について研究会を開催し、その理解を深める。 歴史博物館との連携事業	①両館学芸員に加え、外部の研究者も招聘し、3 回程度の研究会を開く。 ②研究会の成果を紀要等に公開する。
西北タイ民族資料の調査・研究 (1 / 1 年)	企画展準備として、当館所蔵西北タイ民族資料の属性とその収集過程について調査する。	①当館所蔵資料と同じ時期に収集された南山大学所蔵の西北タイ民族資料を実見し、記録する。
ユーラシアのランプに関する研究 (1 / 1 年)	ユーラシア各地のランプの特徴を探り、人にとっての灯りについて考える。	①個人コレクションの概要を把握し、古代から近代までのランプを調査する。 ②研究成果の公開方法（展示、講座講演会、出版）を計画する。
バリの民族衣装に関する研究 (1 / 2 年)	民族衣装だけでなく生活習慣や文化などの調査を行い、バリにおける伝統文化の知られざる一面を探る。	①個人コレクションの概要を把握する。 ②バリに関する文献資料等を収集し、知識を深める。
お茶の展開ルートに関する研究 (1 / 3)	当館所蔵お茶関連資料に関連し、チベット・モンゴルにおけるお茶のあり方、それが伝わったルート、国内所蔵の関連資料について調査する。	①当館所蔵お茶関連資料を整理・記録する。 ②チベットおよびモンゴルのお茶に関する先行研究を調査する。
「唐物」と東部ユーラシアに関する研究 (1 / 3)	日本にもたらされた古代から中世の「唐物」（海外文物）の特質と機能、それが渡って来たルートやネットワークなどを探る。	① 外部の研究者も交えた研究会を 3 回程度開催する。 ② 「唐物」に関する基礎資料を収集する。
平成 29 年度以降開催予定の企画展調査	平成 29 年度以降の企画展開催のために資料調査などを行う。	

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

3 常設展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

(1) 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。（観覧者目標数 40,000 人）

(2) ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。

- (3) 学芸員による解説（和英）を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容となるよう努める。
- (4) **常設展示の和英ガイドブック、英文展示品解説を刊行する。**
- (5) 展示室内・ライブラリーでの「利用者・学芸員双方向コミュニケーション」の充実を図る。
- (6) クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。
- (7) **常設展示室を活用した美術・美術史関係で小・中学校との連携を試行的に行っていく。**
- (8) **月イチ講座に関連した資料の展観、研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行う。**
 冬季は、「自鑪亭至烏斯蔵程站輿図」を展観予定。
- (9) **都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげる。**

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 企画展（観覧者目標数 15,000人）

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
「ギリシア考古学の父シュリーマン展」 平成28年7月16日（土） ～9月4日（日）44日間	4,600人	ギリシアのティリンス遺跡の報告書原画を中心に、世界的な考古学者シュリーマンの業績を、彼と横浜との関係もふまえて紹介する。 ※開港資料館・歴史博物館の協力。
「フスタート遺跡展」 平成28年9月17日（土） ～10月10日（月・祝） 21日間	2,700人	日本調査隊による発掘調査で出土したさまざまな遺物を通して、中世エジプトで繁栄したイスラーム都市フスタートの歴史を紹介する。 ※早稲田大学と連携・協力。
「中国の近代建築—増田彰久写真展」 平成29年1月28日（土） ～4月9日（日）62日間	7,700人	30年にわたり撮影してきた増田彰久氏の写真を軸に、中国各地の近代建築を紹介すると同時に、横浜の近代建築と比較をも提示していく。 ※都市発展記念館と共催。
企画展関連ギャラリートーク	各回10人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示解説を行う。無料

(2) 講座・講演会

項 目	内 容
企画展に関連した講座・講演会	企画展「ギリシア考古学の父シュリーマン展」および「フスタート遺跡展」・「中国の近代建築展」に関連した講座・講演会の開催
月イチ講座	市民が参加しやすいミニ講座で研究成果を定期的に紹介する都市発展記念館との共同事業。



ギャラリートーク



特別公開講演会

(3) 普及啓発

項 目	参加者目標数	目的・内容
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、企画展や館蔵品に関連したもの作りワークショップを実施。参加者対応には市民ボランティアが対応する。
写真展・写真パネル展の開催	企画展来館者数	旧第一玄関などを会場に、企画展等に関連した写真展などを開催し、ユーラシアへの興味を定着させる。
横浜市職員向けの研修	各回30人	教育委員会事務局職員を対象に、館の事業・活動に対する理解を深め、今後の業務に活用できるよう、研修会を実施（教育委員会との連携）。
常設展関連ギャラリートーク	各回20人	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
近隣企業との連携		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画で、館の活動内容とのコラボなどを実施。
「子どもアドベンチャー2015」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加 8月中旬

(4) 集客イベント事業

項 目	内 容
ミニコンサート・大道芸	ユーラシア諸地域の文化に親しめるような民族音楽のミニコンサートや大道芸を開催。企画展開催時または感謝祭などのイベントの一環として実施する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
夏のイベント	都市発展記念館と連携して、夏休みに入る7月下旬に子供向けのワークショップを主としたイベントを開催する。
開館祭	都市発展記念館との連携事業として、3月15日の開館日前後に全館無料の感謝イベントを実施し、市民サービスを供する。

国際フェスタなど近隣イベントへの参加	秋に開催される国際フェスタなどに参加すると同時に、中庭にゲルを建てて、集客に努める。
--------------------	--

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	市民ボランティアが従来のワークショップ・各種イベント等に加え、幅広く館活動を協働できるように検討・試行を行う。



国際交流フェスタでの出店



ボランティアとインターンシップの活動

(6) 近隣施設との連携

項 目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携をおこない、来館者の相乗効果を図る。
日本大通り活性化委員会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会の事業に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。

(7) 大学・学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進する。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材とする学校との連携。 新たに美術・歴史関係で小・中学校との連携も試行的に行っていく。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容にそくした教員対象の研修を企画、実施する。
大学教育連携展示	大学所属の研究者と協働し、講義などに合わせた形で小規模な展示を実施する。

(8) 広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	・研究紀要5号の発行 ・館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第25、26号を発行する。(各10,000部) ・英文展示図録、和英ガイドブックの刊行

リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客 ・横浜フランス月間2016参加
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
学校連携事業	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。

(9) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約10名。
社会研修	大学のインターンシップなどの受入
職場体験	市内中学生の職場体験の受入
大学学外研修	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習や研修を積極的に受け入れていく。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

(2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス目標件数 **75,000件**

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜ユーラシア文化館の施設維持を行う。

横浜市の建物中長期寿命化計画の中で、外壁及びエレベーター塔の修繕を行う。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

6 三殿台考古館事業

〔 運営方針 〕

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。当館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土品等を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっています。

市民や来訪者にその意義を伝え、理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開しています。

今年度も、収蔵された出土品の再整理や遺跡のガイドのために、市民ボランティアを養成するなど、地域や市民と協働で事業に取り組んでいきます。

また、指定管理の第3期目を迎えるに当たって、財団内の他施設との連携を強化していきます。具体的には、横浜市歴史博物館や埋蔵文化財センターとの企画展示や講座、共同研究などにおいて連携を図り、各施設の学芸員が持つ能力を相互に生かしあって、より多くの成果をあげ、なおかつその成果を複数施設の普及啓発事業に展開できるようにします。

なお、昨年度3月の耐震検査によって事務棟の老朽化が指摘されたため、今年度は事務棟の使用が制限されます。具体的には事務棟2階体験学習室の使用を停止し、事務機能を展示室に移転させます。それに伴い展示機能の低下や体験学習室の不在などの懸念がありますが、収蔵庫に展示機能を持たせることや、体験学習室の代わりにパーゴラで体験学習をできるようにするなどの処置をし、サービスが低下しないように工夫します。

1 資料収集保管・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）保管資料再整備事業

（ア）出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着色、新たな復元等を継続して行い、資料の保全と活用を図る。三殿台遺跡と周辺部遺跡関係資料の保管スペースを確保し、保管状況を改善する。

（イ）記録資料のデジタル化事業

記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタルデータ化を実施する。整理後、災害に備える意味も含めてデジタルデータを横浜市歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管する。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、埋蔵文化財センターと連携して記録資料のデジタ

ル化を継続する。

(2) 調査研究事業

(ア) 三殿台遺跡出土品の資料化。

三殿台遺跡出土資料のうち、弥生時代中期後葉の遺物と遺構について、再整理報告を行う。この作業は、29年度に横浜市歴史博物館で開催が予定されている企画展に連動させるものとする。

(イ) 三殿台考古館収蔵資料の活用。

館収蔵資料を展示等で公開・活用するほか、貸出し等も行う。

(ウ) 原始技術の復元的研究

原始時代の諸技術を実験考古学的な視点・方法によって復元する。その結果を体験教室に生かしたり、その過程のデータ・映像などを企画展等に生かすなど、多方面の活用を図る。なお、初年度にあたる今年度は、磨製石斧の製作と、製作した石斧による樹木伐採実験などを行う予定で、その成果を29年度の横浜市歴史博物館企画展に活用する。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 常設展事業

常設展示室の維持管理を行うとともに、展示内容の充実を図り、定期的な展示品の入れ替えを行う。来館者にわかりやすい展示解説を実施する。なお、展示室の約半分に事務機能を移転させる予定なので、新たに収蔵庫に一定の展示機能をもたせ、展示室の補完的な役割を担えるようにする。

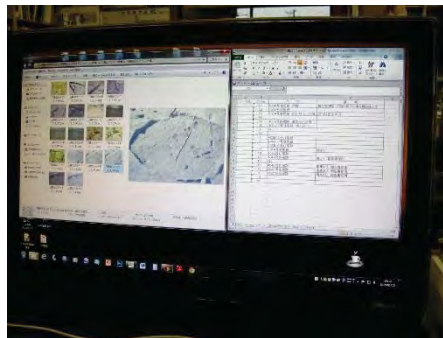
（観覧者目標数 16,200人）

(2) 露出展示遺構保全事業

保護棟内に露出展示されている竪穴住居跡の適切な保全を図るため、定期的なメンテナンスを実施する。



露出展示遺構保全作業の様子



カラースライド索引作成作業の様子

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 企画普及事業

項 目	目的・内容
「いそっぴゴールデンウィーク2016スタンプラリー」への参加	磯子区の市民利用施設が企画する、ゴールデンウィークの企画への参加。
「子どもアドベンチャー2016」への参加	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加。

三殿台遺跡整理ボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。 埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。年2回ボランティア研修を行うとともに、適宜埋蔵文化財センター、歴史博物館と連携した研修を行う。 また、体験学習の補助を行う。年2回の研修を行う。
三殿台遺跡ガイドボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとしてガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡の解説を行うとともに、生涯学習支援を行う。年2回ボランティア研修を行うとともに、適宜埋蔵文化財センター、歴史博物館と連携した研修を行う。 また、体験学習の補助を行う。年2回の研修を行う。
学校見学の受け入れ	小・中・高・大学による学校見学を随時受け入れる。
職業体験・館務実習の受け入れ	職業体験は随時、学芸員資格取得に伴う館務実習は大学の夏休み中に3人程度まで受け入れる。
クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等への支援	クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等の支援を行う。
ホームページの運営	月1回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を広報する。
ダイヤモンド富士観察	ダイヤモンド富士が見学できる可能性のある期間、開館時間を延長する。
その他広報	(ア) 体験学習の案内チラシを作成し、周辺小・中学校、市民利用施設に配布する。 (イ) 「PLANET かながわ」等のインターネットを利用した情報提供。 (ウ) テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内。 (エ) タウン紙等紙媒体による施設案内。



子どもアドベンチャー2015



GW 勾玉作り教室



ダイヤモンド富士

(2) 体験学習事業

項 目	目的・内容
ゴールデンウィーク体	ゴールデンウィーク期間中に行う、子供向けあるいは親子向けの体験教室。

験教室	勾玉作り教室、石器作り教室、火起こし教室など、古代の技術を体験する。いずれも当日申込み。なお、これらの体験教室は、磯子区館長連絡会に参加している施設で連携して行う「いそっぴゴールデンウィーク2016」のチラシに案内を掲載する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に、子供向けの体験教室を行う。普段有料で行うものも無料にし、開港記念日という横浜ならではの休日に親子で楽しんでもらう。
キャンプ in 三殿台	国指定史跡の遺跡公園である三殿台にキャンプを張り、家族で一晩を過ごす。弓矢撃ちや火起こしの体験も行い、遺跡に暮らした古代人の生活を体感してもらう。7月下旬に開催。6家族限定で事前申込み。
夏休み体験教室	夏休み期間中に行う、子供あるいは親子向けの体験教室。勾玉作り、土偶作り、土器作り、火起こし、石器作りなど、多彩な体験教室を開催する。また古代人体験教室として、石器を使って果物の皮をむいたり、弓矢を撃ったりなど、遺跡に暮らした古代人の生活を体感する教室を開催する。
秋の土器作り教室	10月の3日間かけて粘土こね・成形・調整・文様付けを行い、その後乾燥させて11月に焼成して完成させる。電気窯を使わずに、薪を使って野焼きすることで、古代の土器作りを実感してもらう。事前応募。
秋の釣り針作り教室	鹿の角を削って、釣り針を作る体験教室。とても硬い鹿の角を材料とすることによって、古代人の道具作りの難しさを体感する。事前応募。小学5年生以上。
ひらひら凧作り教室	12月の年末に行う。細い竹の枝に糸をつけ、障子紙で小さな凧を作る教室。簡単な遊びとして、冬休みに入った近所の子供向けに行う。当日自由参加。
冬の土器作り教室	1月の3日間かけて粘土こね・成形・調整・文様付けを行い、その後乾燥させて2月に焼成して完成させる。事前応募。



土偶・土器野焼き



古代人体験教室 弓矢うち



キャンプ in 三殿台

(3) 展示事業

項 目	目的・内容
土器作り教室作品展	土器作り教室の参加者が製作した土器を展示室で展示し合わせて施文具や制作方法などを解説していく。 11月

(4) グッズ制作事業

項 目	目的・内容
缶バッジの製作・販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを製作し、販売する。
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントを製作し、販売する。
オリジナルクリアファイルの製作・販売	オリジナルクリアファイルを製作し、販売する。



土器片ペンダント



缶バッジ

4 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の施設維持を行う。

（1）事務棟老朽化に伴う諸対策

（ア）事務機能移転

事務棟1Fの事務機能を展示室に移転させる。工事期間・移転期間中は施設利用者の安全に十分注意し、ホームページなどでの的確に周知を行う。

（イ）事務棟2Fの体験学習室の使用を停止する。代わりに屋外のパーゴラで体験学習が行えるように整備する。

（ウ）事務機能が展示室に移転し、相対的に展示機能が低下するため、収蔵庫に展示機能をもたせるべく整備する。

（2）三殿台考古館の管理

（ア）経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定。復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つための維持管理を行う。

（イ）開館時間の拡大

本年度も午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施について設置者と検討・協議する。

（3）飲料販売